

長井市公共複合施設整備市民検討委員会
議事録

令和4年2月24日

長井市公共複合施設整備市民検討委員会 出席者名簿

■委 員

No	氏 名	所 属 等	出 欠
1	加藤 俊昭	長井市社会教育委員会 委員長	出
2	長沼真知子	長井市振興審議会 委員	出
3	横山 敬生	長井中央商店街振興会 会長	出
4	倉持 宏幸	長井市立図書館 館長	出
5	梅津 洋	長井小学校 校長	欠
6	平 みわ	長井市図書館協議会 委員長	出
7	大津 君彦	市子ども育成会連絡協議会 副会長	出
8	大峽登詩子	おひさま保育園 園長	欠
9	鈴木 良昭	白山こども園 園長	出
10	鈴木 英明	本町大通り商店街振興組合 理事長	欠
11	村田 佳子	総合学習指導塾七色学舎	欠
12	高世美恵子	株式会社高世工務所	欠
13	平 奈緒	公募委員	出
14	渡邊 洋男	公募委員	欠

(順不同、敬称略)

■事務局

1	齋藤 環樹	副市長
2	竹田 利弘	政策推進監
3	青木 邦博	技監(兼)建設参事
4	高橋 嘉樹	地域づくり推進課長
5	鈴木 幸浩	子育て推進課長
6	佐原 勝博	建設課長
7	吉川 幸代	総合政策課 総合戦略室長
8	佐藤 裕子	地域づくり推進課 補佐
9	鈴木 千佳	子育て推進課 補佐
10	鈴木 満成	建設課 公共施設整備室長
11	高石 学	建設課 公共施設整備室係長
12	佐々木 優	建設課 主任

1. 開会

2. 副市長あいさつ

平日のご多忙のところ、また足元が悪い中ご出席いただき感謝。また、昨年9月に開催した第3回の検討委員会に引き続きご出席いただき感謝申し上げます。

公共複合施設は屋内遊戯場や一時預かり室を有する子育て世代活動支援センターと、多機能型図書館の機能を兼ね備えた施設だが、皆様からの期待も大きく、市としても大変重要な施策。おかげさまで委員の皆様をはじめ、市民の皆様からのご理解、ご協力をいただき、事業そのものは順調に進捗している。

工事は当初の予定どおり昨年10月に着手し、冬期間の工事や春からの工事に向けた準備が進められている。

また、12月下旬から1月下旬にかけて施設の愛称を募集し、市内外、県内外から375件という多くのご応募をいただいた。委員の皆様には愛称の一次選考にご協力をいただき誠に感謝申し上げます。

なお、愛称募集の際に、「公共複合施設」という漠然とした名称ではわかりづらいため、「遊びと学びの交流施設」という施設の機能がイメージしやすい、条例等に規定する正式名称を決めさせていただいた。

本日は、一次選考の結果、事業の進捗状況、今後のスケジュールについて事務局から説明させていただくので、引き続き活発なご意見等をいただきたい。

3. 委員長あいさつ

今年は雪が多く、久しぶりにこのような雪の状況を見たと感じている。

ここ数年、私が住んでいる地区では冬に子どもの姿を見ることが無く、外遊びをする子どもがいるような状況ではなかった年が続いていた。しかし、今年はたまたま近くの公園が雪捨て場になり、大きな雪の山になったところ、子どもたちがどこからか集まってきて、雪山で遊んでいた。子どもは面白いことができそうだと思うと、興味津々でどこにでも遊びに行くのだなと改めて感じている。

今回の施設も大量の雪を口説くことなく、克雪、利雪をうまく考えて、冬のワンダーランド、冬を中心になるような複合施設になると面白いことになるかと今考えているところ。せっかく降っている雪を楽しむということも含めて、今後も考えていく必要があるのかなということを皆さんにも問いかけたい。

副市長からもあったとおり事業は粛々と進んでいるので、今日はメインとして愛称について話し合い、市長に答申するという大事な会合ということなので、皆さんの忌憚のないご意見を賜りたい。

4. 協議

(1) 施設愛称募集一次選考結果について

資料1-1、資料1-2及び資料1-3の内容について事務局から説明を行い、最終選考に残す愛称候補を選定するための協議を行った。

なお、事務局からの説明の際、基準点を20点以上とし、合計点数上位8点の愛称候補を最終選考に残すことを提案した。

また、複数の応募者が同じ読み方の愛称を応募した場合の考え方について、表記が全く同じものは同一の愛称として取り扱い、ひらがな、カタカナ、アルファベット等の表記が違うものは別々の愛称として取り扱う旨の説明を行った。

委員：確認したい。愛称一覧の一番下に参考として「まゆっこ」が37点と書かれているが、上の方にも「まゆっこ」が3つ続けて記載されている理由をもう一度説明いただきたい。

事務局：資料1-1の五十音順の方をご覧いただきたい。一次選考の際に委員にお送りした一覧と同様に五十音順で並んでいる。「まゆっこ」は全く同じ愛称を別々の3人から応募いただいたので、3つ続けて記載されている。

例えば、委員Hの方は3つの「まゆっこ」すべてに10点が付いているが、これは一次選考の採点の際にそのような書き方でご回答いただいたので、資料1-1にはありのまま反映している。委員Fや委員J、委員Kについても同様。一方で、委員Aや委員D、委員Nのように、3つのうち1つにのみ点を付けた方もおり、採点のしかたがバラバラな状況になっている。

そのような状況の中で、先ほどの説明のとおり同一表記の愛称は同一のものとして扱うこととしたため、3つの「まゆっこ」に分散した点をひとつにまとめると37点になるという意味で、参考として最下段に記載させていただいた次第。

委員長：事務局からは、目安として合計点20点以上で線引きをし、8点の愛称を委員会として市長に答申するという形の提案があったが、委員の皆さんはどうか。

委員：20点という基準に違和感があるわけではないが、86番の候補と333番の候補の間には4点差があり、大きく点数が離れていると思う。点数の差を見ると上位5位までがひとつの塊に見えるが、考え方としてはいかがか。

委員長：ひとつの考え方として、点数の分布状況を見ると86番までの上位5点がひとつくくりで、下位3点は点数が離れているのではというご指摘。皆さんからのご意見はどうか。

委員：選考の段階で非常に悩んだ。基本的には、こんなにたくさんの方が応募してくださったということが、すごくこの施設に興味関心を持ってきていることの現れだと感じたのと、先ほど紹介があったように同じ愛称を複数の方が応募されたことも興味深く拝見した。個人的にはこういうネーミングセンスが全くないので難しい。この検討委員会として何個を推薦するかということに関しては、あまり絞って

も仕方ないし、広げすぎてもどうなのかなという感じで、判断に困っているところ。

委員：私はコンセプトにある「紡ぐ」がキーワードだと思っている。それに関わる愛称が47番と288番に入っているの、上位5位までで全く問題ない。

委員：全体を見たときに、県外からの応募の方が多いことに驚いた。愛称の理由もしっかり書かれていたが、やはり地元の想いや市民の気持ちも説得力があったと感じた。最高得点で36点だとすると、20点以上というのは線引きとしては妥当ではないかと思う。

委員：私も事務局案で良いと思う。子どもが呼びやすい、子どもが覚えやすいものを選んだ。はじめは名前を選んだが、その後に理由を読んでいたらわからなくなって、その後に年齢を見たら更にわからなくなった。最終的にはみんなが呼びやすい、覚えやすい音がいいという意味では、上位にあるのはみんな頭に残る名前が多いので、このままでいいとは思。最後は市長のセンス次第かと思う。

委員：点数の分布を見たときに27点と23点の間に差があるという話をしたが、補足すると288番と86番の間には5点差がある。しかし、288番の「まゆっこ」は実際には3つあるので例外的に考えて、やはり86番の愛称までがひとまとまりと考えたところ。

委員：意味よりも音で、子どもたちが呼びやすいということや覚えやすいということを一覧表を見せてもらった。子どもたちの遊び場だと、「もっくる」や「べにっこ」などひらがなで4文字というイメージがあったので、3～4文字という上位の20点以上のものであれば良いと思う。愛称は子どもたちが一番使うと思うので。意味は後でも付けることはできると思うので、今ある施設やお店と重複しないような形であれば。

事務局案の上位8点とするか、委員案の上位5点とするかについて、当日出席の委員の内、委員長を除く7人の委員にて多数決を採った結果、事務局案2名、委員案5名という結果となった。

よって、委員から提案された上位5点を最終選考に残すことに決定した。

事務局：選定に時間を割いていただき、只今5点ということで決めていただき感謝。今後、似たような名称や商標について再精査した上で市長に選んでいただくことになるので、ご了承いただきたい。

(2) 施設整備事業の進捗状況について

資料2、資料3及び資料4について事務局から説明し、質疑応答を行った。

委員：資料の4ページを見ると、書架が前の方は5段、後方にあるのは6段になっているが、このような書架を採用するというのでよいか。

事務局：一番手前の書架をあえて1段低くすることで、見通しが良くなればという考え。また、1番手前の書架はティーンズコーナーとする想定なので、中高生でも使いやすい高さという考えで、手前は5段、後方は6段とする計画。

委員：新しい図書館の書架に、現在の図書館の本がどれくらい入るのかということを構想しておく必要があるのでは、提示していただくと図書館としてはありがたい。

事務局：現図書館の令和2年3月末の書籍は11万冊と認識しているが、新図書館の収容冊数は14万7千冊。当初15万冊を目標としていたが、今後電子書籍が入ってくることや、棚の使い勝手等を考え、14万7千冊と想定している。

委員：総冊数については承知した。具体的な配置や、現在の指定管理の体制の間に何をどこまでする必要があるのかということ職員が非常に気にしているので、わかれば教えてほしい。

事務局：新しい図書館への移転作業は簡単なものではないという理解はしている。令和4年度のなるべく早い時期に指定管理者の選定、名称も含めた設置条例について取り組んでいく予定。

委員：遊戯場について。資料5ページを見ると柱が何本か立っていて高さがある。高さを活かして子どもたちが遊ぶ遊具を組み合わせると、子どもは高いところに登りたがるし、高さがある遊具はすごく楽しんで遊ぶ。はなぞの保育園であればボルダリングがあり、登って遊ぶ園児もいる。ただの柱ではなく木登りができるように活用したり、壁も高さがあれば活用していただいた方がいい。ぱっと見た感じ、保育園児は楽しめそうだが、小学校高学年は飽きてしまうかもしれないと感じるので、平面だけではなく可能であれば高さも活かしてほしい。

事務局：ご覧いただいている5ページのイメージについては、遊具が全く置かれていないものなので、ご意見を参考にして楽しい遊具を検討したい。

また、現在事業者側からいただいている提案では、キッズジムの壁面を使って、危険ではない程度の高さのボルダリングのような遊具は検討している。ボールプールの高台は1m程度高くなっているが、昇降遊具が設置されており、昇り降りをする上下方向の動きができるように考えている。なお、更に楽しい遊戯場にすべく引き続き検討する。

委員長：工事現場の写真を撮っていただいているが、これは大事なこと。同じところから進捗状況を記録していただくことは続けてほしい。

一般市民の方は下からしか見えず、現場の中の様子が見づらい状況だが、市民の方

から要望があれば庁舎の方から眺められるということではないか。

事務局：3階の窓や屋上等、見てもらうことは可能。ただし特に屋上は危険が伴うので、例えば建設課にお声がけをいただく等していただければ。

委員長：ぜひ、現場の様子を見たい場合は、一言声をかけていただければ見られるということ PR していただきたい。

事務局：これから工事が進捗していけば、月ごと程度で市のホームページに掲載するので、そこに本当に見たい場合の案内を付け加えて載せたいと考えている。

委員：前回か前々回の検討委員会で、冬期間のシューズボックスについて、長靴のような高さがある靴の収納性に関して意見させていただいたが、あの時点から改善点や変わった点はあるか。

事務局：シューズボックスの件については設計業者にも意見を伝え、夏場は上下に分けている仕切り板を冬場は外して長靴にも対応できるようにするという対応策を提案いただいております、そのように進めているところ。

委員：屋上がかなり広い。パラペットの高さや強度の問題はあると思うが、これから利用する余地はあるのか。

事務局：例えば、太陽光発電を乗せられないかという方もいたし、ヘリコプターの離発着という方もいたが、建築上は雪の荷重しか考えていないというのが現実。

委員：利用の想定が無いことは承知した。

雪荷重について、豪雪地帯なので2m分くらいの荷重を想定していると思うが、パラペットの高さはどのくらいか。冬場は西風が強いので、東側の屋根にすごい雪庇ができる。対策を考えないと東側の軒下が危険地帯になるので確認したい。

事務局：屋上には東西方向に雨水を流すための勾配が付いているため、東側と西側でパラペットの高さが若干異なるが、約1mから2m程度の高さがある。また、西風により屋上東側に雪が溜まることは想定しており、パラペット上部に融雪ヒーターを付けているため、雪庇ができないように設計している。

委員：検討委員会は、令和4年度はいつくらいの時期に何回程度の開催を予定しているのか、教えてほしい。

事務局：来年度は2回の開催を予定しており、1回目は7月～8月頃、2回目は1月～2月頃を予定している。協議というよりは工事の進捗状況を皆さんにお示しすることが主な内容になるかと思うが、その時々で協議すべき内容があれば、ご協議いただきたい。

委員：ハード面のスケジュールは示されているが、ソフト面のスケジュールはどうか。9月の議会に通らないと決まらないという話があったが、本のICタグの貼付けは4年度中に現図書館の職員が作業する必要があるのか。5年度に入ってから休館中

に新しい指定管理者の仕事になるのか、わからないで見通しがあれば教えてほしい。

事務局：指定管理者を決める際は金額の面の検討も必要だし、最初にこの施設の設置条例を定めなければならない。議会は年に4回なので、6月議会と9月議会という認識をしている。そこまで進まないとその先のことは決められないので、早急に進めていきたい。

(3) その他

委員長：建物内部の木質化を重視しているという話は聞いていた。ウッドショックが続いている状況の中ではあるが、地域材を使っていたらいいという市民の思いは多いと思う。現段階では内装などで地域材にこだわっているという部分はあるか。

事務局：はじめに、ウッドショックもあったが、鉄骨材の高騰と納期が8か月から10か月かかるという認識もあったので、昨年の設計が終わった段階で鉄骨を発注していた。それでも鉄骨が立ち始めるのは5月からなので、複合施設の工程は鉄骨によって決められた工程とも言える。

内装の木材については、使える部分は地元産材を使いたいという考え方は持っているので、月1回の定例会議の中で木材についての話し合いも引き続きしていきたいと考えている。

5. その他

事務局：委員の任期が今年の3月いっぱいまでとなっている。事務局としては現在の委員に引き続きお願いをしたいと考えている。来年度開催時期が近づいてきたら、改めてご案内させていただく。

6. 閉会